

農

農文協の全集

農が国の総体を支えるという矜持

明治維新はほとんど無血だったとはいえ、資本制・中央集権へと国家構造を変える革命であった。国軍の創設によって国家権力は強化され、一方、文化は西欧にひたすらなびいた。

とはいうものの、欧化の中にあっても明治・大正期の日本農学・農政学は単に農業にとどまらずに、つねに国全体の産業構造と精神構造の総体を論じていた。現在のように食料・農業・農村の各問題に分解されてはいなかったのである。

それらの古典的名著は「明治大正農政経済名著集」全24巻、「昭和前期農政経済名著集」全22巻によって容易に入手することができるし、学問の総合化が望まれる現今、とくに若き学徒にとって必読の文献である。

農業系の全集は「昭和後期農業問題論集」「食糧・農業問題全集」「全集 世界の食料 世界の農村」と続き、個人全集に「近藤康男著作集」「小倉武一著作集」がある。

明治大正農政経済名著集

（全24巻 A5判、上製、箱入り）

興業意見・所見他 第1巻

前田正名 明治17（1884）年、34歳

松方デフレによる農業・農村・農民の疲弊を正すべく、時代の急務と喝破。前田が官の側から出された地域振興計画。全国規模で在来産業の実態を調べ、その有

日本地産論 第2巻

M・フェスカ 明治23（1900）年

農商務省地質調査所に招かれ、駒場農学校で教鞭をとったドイツ人農学者による日本農業論。北海道から鹿児島まで全国の土性調査

時代ト農政・他 第5巻

柳田国男 明治43（1911）年、37歳

日露戦（明治37年）後の恐慌で農村はまたまた疲弊。サーベル農政が闊歩する農村に「真正の村是は当局者自身の手で」と訴えた。輸入観念農学と小農主義農

日本尊農論・日本農政学 第6巻

河上肇 明治37、38（1905、6）年、25、26歳

日露戦の勝利で勢いを得た自由主義経済論に立つ工商立国・賤農論に対し、それは後発国の追い上げによつてその独占的地位は崩れるので甚だ危険と警鐘、農工商鼎立の理論化に挑んだ。中国、韓国などに追いつ

農業本論 第7巻

新渡戸稻造 明治31（1899）年、36歳

日本人の手によって初めて包括的に論じられた農業論の原典。その視野は広く医療健康、教育、循環型社会、人口問題にまで及び、その中に農業・農村を位置づけその貴重なる所以を説

適産調要録・他 第14巻

石川理紀之助 大正6（1917）年

官の前田に対し民の側から地域づくりを説いたのが石川のこの書。地域の実態調査、営農・販売、地域づ

農村問題と社会理想 第21巻

那須皓 大正13（1924）年

深刻の度を増しつつあった小作争議を前に「農村問題とは文明問題なり」という高い見地から土地所有、農

農村自治の研究 第22巻

山崎延吉 明治41（1909）年、35歳

新渡戸「農業本論」と並び称され、15版を数えた名著。国家的統治の客体とし

昭和前期農政経済名著集

（全22巻 A5判、上製、箱入り）

農村問題入門 第1巻

猪俣津南雄 昭和12（1937）年、39歳

恐慌下の日本農業の困難を日本資本主義の後進性と

農業経済論 第2巻

近藤康男 昭和7（1932）年、23歳

わが国においてマルクス経済学の立場から書かれた最初の「農業経済学」の書。明治大正期の農政学が理念の体系だったのに対し、農業の諸問題を社会的総資本の著積運動に関連して考察した。本書をもって農業経

日本農業の展開過程 第3巻

東畑精一 昭和11（1936）年、37歳

右記近藤の著作と共に学としての農業経済学の確立

をなした名著である。国民経済との関連で農業を純粹経済学的に分析し、日本農業を「動かすもの」を明らかにした。「農民、地主」

日本農業の基礎構造 第7巻

栗原百寿 昭和18（1943）年、32歳

日本農業の特殊性の検出のみを志向することの理論的不毛性を衝き、地主制の桎梏のもとでもそれを押し切つてゆこうとする生産力

農業金融論 第14巻

小平権一 昭和5（1930）年、46歳

産業組合系統金融の整備確立を目標に各国の制度を調べ日本の事情と比較検討した研究の集大成。恐慌下

農業経済地理 第18巻

青鹿四郎 昭和10（1936）年、43歳

郷土教育における郷土、とくに農業の地域性認識の方法と将来への見通しを示すために書かれた異色の名著。農業の地域性とは「空

農村社会の研究 第20巻

有賀喜左衛門 昭和13（1938）年、41歳

農村研究の二つの流れ―経済史学と民俗学―は村落生活の基本を等閑視してき

入会権論 第21巻

奈良正路 昭和6（1931）年、32歳

農業生産と農村生活を支える必要不可欠な場だった入会林野が国家、地主によ

記事中に記された年齢は執筆または発行時の年齢

明治大正 農政経済名著集

全24巻 農村経済の疲弊が進み寄生地主制が確立する時期に書かれたわが国社会科学の原点。ヒューマニズムを出発点としながら、農業・農村が商工業の隆盛と対極の窮地におかれることの国民経済的弊害を説き、その克服の途を科学的に明らかにしようとした。

〈編集〉近藤康男、阪本楠彦、村上保男、梶井功、A5判、上製、箱入り●揃価91500円



農文協

農を通じて創造された わが国社会科学の原点

- 1 興業意見・他 前田正名 ●3500円
- 2 日本地産論・他 フェスカ ●4000円
- 3 日本振農策・他 エッゲルト他 ●3000円
- 4 信用組合論・他 平田東助他 ●3500円
- 5 時代ト農政・他 柳田国男 ●3500円
- 6 日本尊農論・他 河上肇 ●5000円
- 7 農業本論 新渡戸稻造 ●4500円
- 8 農業経営学 伊藤清三 ●3500円
- 9 実地経済農業指針・他 斎藤萬吉 ●5000円
- 10 土地経済論 河田嗣郎 ●4500円
- 11 産業組合講話 佐藤寛次 ●3500円
- 12 農村革命論・他 横田英夫 ●3500円
- 13 小農保護問題 社会政策学会編 ●3000円
- 14 適産調要録・他 石川理紀之助 ●3000円
- 15 永小作論 小野武夫 ●3500円
- 16 農村法律問題 末弘蔵太郎 ●3000円
- 17 第壹農業時論農村行脚三十年 横井時敬 ●4000円
- 18 農民組合の理論と実際他 杉山元治郎・若林三郎 ●3500円
- 19 明治大正農村経済の変遷 高橋亀吉 ●3500円
- 20 世界農業史論 佐藤昌介、稲田昌植 ●3500円
- 21 農村問題と社会理想他 那須皓 ●3500円
- 22 農村自治の研究 山崎延吉 ●5000円
- 23 米と社会政策・養蚕労働経済論 ラビット他 ●4500円
- 24 明治農業論集 明治期に華々しく展開された地租・土地所有をめぐる論争・谷干城、幸徳秋水、赤羽など ●4500円

ご注文は

農文協 ☎107-8668

東京都港区赤坂7-6-1

☎03(3585)1141

FAX. 03(3589)1387

URL=http://www.ruralnet.or.jp/

価格は税込

食糧・農業問題全集

全20巻・22分冊(編集委員)今村奈良臣、犬塚昭治、河相一成、七戸長生、陣内義人、永田恵十郎、松浦利明、吉田忠、A5判、上製、平均300頁
●各3200円、揃価70400円

プラザ合意の翌86年から、的グローバリズム批判、市刊行されたこの全集は、急場原理至上主義批判の先鞭激な円高による内外価格差をつけた。さらに『農業の拡大、土地の高騰等を理的利用』など、およそ農政業・農協バッシングに対し経済学には似つかわしくない数々のすぐれた理論的著作によりその誤りをただし、こんにちに連なる覇権主義

4 地域農業の組織革新

高橋正郎

十年一日の如く唱えられを批判し、「近隣協調・地域規模拡大(両極分解論) 間競争」の原理に立つ地域による農業再建のとりえ方 農業システムの創造がカギ

全集世界の食料世界の農村

全27巻(企画委員)今村奈良臣、犬塚昭治、七戸長生、永田恵十郎、中安定子、原田津吉田忠 A5判、上製、平均270頁
●各3200円、揃価86400円

日に日に国境が低くなつていく現代は、資源、技術、「世界とアジアからの受信文化、制度など、何が非代替的では何は交流、交換が可プロに編まれたこの全集能なのか。棲み分けと相互は、地域主義に基づくグロー浸透の了解が必要だ。それれた地域主義が食と農の世が学び合い、互いを尊重し、界で可能であることを示し足らざるは補い合つて自分ている。

2 東アジア農業の展開論理

今村・金・劉・羅・坪井

稠密な人口を支えた東アジア農業の、欧米のそれとを比較検討し、アジアの特性を浮き彫りにする。

5 農業の継承と参入

酒井・柳村・伊藤・斎藤

農業情勢・農政の変貌、若者の職業意識の変化から

と強調。集落営農を進める 上でも有益な示唆に富む。

5 人間と自然の生産力

陣内義人

農業ないしその生産力を、間を幾久しく継承していく分析する視座を国民経済のための高適な見地からの新ら国民生活に移して考察すればどうなるか。自然と人

7 明日の農協

武内哲夫・太田原高昭

協同組合理念をいかに事業に投影させ経営体としても成り立たせていくか。制度としての農協」という概念を軸に過去を総括、明日を展望。系統の学習図書文献にも指定された。



8 農業の教育力

七戸長生・永田恵十郎・陣内義人

農のもつ人格形成・教育的に解明した先駆的意欲力について人類史的スケールで哲学的・原理的・実践源である農にまで遡って考

問題の所在を探るとともに、フランス、ドイツ、アメリカの制度、政策、経験例も豊富に紹介。

に学びながら解決の方向を提示する。日本の具体的事例も豊富に紹介。

11 開発援助の光と影

嘉田・諸岡・竹谷・福井

食料・人口・環境問題の解決に直結する日本の農業ODAの実態、改善点をインドネシア・マレーシア・フィリピン・スーダンを舞台に検証する。



15 二十世紀社会主義農業の教訓

谷口信和

社会主義農業が崩壊せざるを得なかった要因を旧東独を中心し、構造的な日本農業が学ぶべき教訓を導き出す。

独・米・日と比較しながら

17 バイオテクノロジーの農業哲学

西尾・中島・大澤・宮田

バイオテックはもはや研究機関や大企業の独占技術ではない。農家が営々と築いてきた育種や微生物利用の延長線上にあるものだ。研究

えるのに最適のテキスト。

11 B 工業化社会の農地問題

宇佐美繁・石井啓雄・河合一成

都市近郊、兼業農業地帯、過疎山村、多様な様相を呈する農地問題は日本の工業化社会の所産であり欧米とは異なる日本の特徴だ。家

12 農産物の価格と政策

犬塚昭治

農産物の価格と生産の関係は工業とは違う特殊農業的な考察が必要とされる。米の構造の過剰に象徴される農業生産構造の変化と価

17 食生活変貌のベクトル

吉田忠・秋谷重男

明治期以降の米食型食生活の形成と変質の要因を洗い、流通、外食産業、中食市場の拡大、揺れ動く消費

23 欧米諸国の栄養政策

並木正吉

世界の栄養政策を体系的・総合的に紹介・分析した初めての本。ノルウェー・スエーデンなど欧米18か国・地域の経験と成果を歴史的に検討し、日本の食政策に示唆を与える。



24 アジア漁業の発展と日本

廣吉・加瀬・馬場・張・増井ほか

世界的な資源保護管理の潮流とアジアの台頭を受け、日本漁業は変貌を辿ら

26 森林資源の利用と再生

永田信・井上真・岡裕泰

単純な森林破壊論に線を描き、経済発展と資源変動の相関を長期スパンでとらえ、日本中山間地帯林業再生の道を探る。森林消失著しいフィリピン、インドネシア、タイについては経済発展と回復の可能性を詳述。



18 地域資源の国民的利用

永田恵十郎

土地、森林、河川、生物、無生物、地域の伝統的技術等々、地域資源は自然と人間をめぐり成している。その特性を非移動性、有機的連鎖性、非市場性にとらえ、地域の再生と振興の基本論



昭和農業技術発達史

農林水産省農林水産技術会議事務局編、農林水産技術情報協会刊

日本農業への社会的要請と、それに応えて飛躍・画期をもたらし技術開発と普及百年のドラマ。①農業動向編 ②水田作編 ③畑作編・工芸作編 ④畜産編・蚕糸編 ⑤果樹作編・野菜作編 ⑥花き作編・食品加工編 ⑦共通基盤技術編、資料・年表



昭和農業技術史への証言

西尾敏彦編

稲作、畑作、バイオなど、携わった人びとの苦闘の足各分野の技術開発に実際に

近代日本農業技術年表

(明治元年～平成10年)

農業の全分野(作物・野の総合年表。人名・事項の菜・果樹・花き・畜産・養 詳細な索引により、「技術」蚕・工芸作物・遺伝資源・食品等)と社会の関連事項とを対比させて記載した初

百年をみつめ21世紀を考える

川嶋良一監修、農業試験研究一世紀記念企画

農業の発展・飛躍をもたらしした科学技術とその成果を物語でまとめる。稲品種、畑作、果樹、畜産、養蚕、

農文協

日本の破局と再生への芽を正確に見定める

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 農村問題入門・他
猪俣津南雄 ●5500円 | 12 米穀流通費用の研究
木村和三郎 ●4000円 |
| 2 農業経済論
近藤康男 ●4300円 | 13 日本産業組合論
井上晴丸 ●3600円 |
| 3 日本農業の展開過程
東畑精一 ●4500円 | 14 農業金融論
小平権一 ●8000円 |
| 4 農業問題と土地変革
平野義太郎 ●5800円 | 15 農家負債と其整理
河田嗣郎・裕正夫 ●5000円 |
| 5 日本農業論
戸田慎太郎 ●4000円 | 16 農業生産費論考・他
大槻正男 ●3800円 |
| 6 米と繭の経済構造・他
山田勝次郎 ●4400円 | 17 日本農業の機械化
吉岡金市 ●3700円 |
| 7 日本農業の基礎構造
栗原百寿 ●5500円 | 18 農業経済地理
青鹿四郎 ●5400円 |
| 8 農業土地政策論
沢村康 ●6000円 | 19 畜産経済地理
宮坂梧朗 ●5200円 |
| 9 日本農村人口論
渡辺信一 ●5800円 | 20 農村社会の研究
有賀喜左衛門 ●6600円 |
| 10 農民離村の実証的研究
野尻重雄 ●6800円 | 21 入会権論
奈良正路 ●4200円 |
| 11 農業生産の基本問題・他
川俣浩太郎 ●5700円 | 22 農民闘争の戦術、その躍進他
西俊夫 ●5200円 |

昭和前期 農政経済名著集

全22巻 恐慌に始まり敗戦で終わった暗い時期。しかし一方で、激しい思想弾圧にも屈せず、わが国社会科学が一步も二歩も前進した光輝ある時代でもあった。数々の名著を生み出し、戦後の民主化を学問的に準備した思想的・理論的格闘の中心軸は、農業問題であった。〈編集〉近藤康男、阪本楠彦、村上保男、梶井功 A5判、上製、箱入●揃価113000円

